

取扱説明書のダウンロードサービスは
「以下のご利用条件」にご同意頂いた上で
ご利用下さい。

＜ご利用条件＞

本サイトに掲載している取扱説明書は、代表的な
墜落制止用器具の説明書を掲載しております。

よってすべての製品の取扱説明書を掲載しており
ません。

また、ご購入時の製品に同梱されている取扱説明書
には、その製品独自の補足的な取扱説明書を同梱
している場合もあり、購入時の取扱説明書内容と
異なる場合があります。

本サイトの取扱説明書は、製品に同梱されている
取扱説明書の補足的情報としてご利用ください。

また、掲載している取扱説明書は最新の内容でない
場合もあります。

掲載している取扱説明書以外の取扱説明書の
お取り寄せ、及び、ご質問は弊社「お問合せ窓口」
までご連絡下さい。



取扱説明書

「墜落制止用器具の規格」適合品

墜落制止用器具/胴ベルト型

ツヨロン® 胴ベルト型墜落制止用器具 【ロープ式】【ノビロン式】【ブレード式】【ストラップ式】

この取扱説明書は下記の製品用です。

胴ベルト型墜落制止用器具 / 胴ベルト型ランヤード

本品を正しく安全にお使いいただくために、**ご使用前に作業者と事業者は本書を必ずお読みください。**

「1.お使いいただく前に」および「2.安全にお使いいただくために」は事故を未然に防ぐためにとっても大切ですので、よくご理解のうえ、ご使用ください。

ご使用の際は、「6.点検と廃棄の基準」に従って、点検を行ってください。使用経験の少ない作業者は、定められた責任者と共に使用前後の点検を行ってください。

- ご使用の前に取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- 本書は必要な時に活用できるよう大切に保管してください。
- 本書を紛失された場合は弊社に請求してください。



形状は一例を示します。



FUJII-DENKO

このたびは、《胴ベルト型墜落制止用器具及び胴ベルト型ランヤード》をお買い上げいただきありがとうございます。

本品は、2m以上の高所作業において、フルハーネス型の着用では墜落時に地面に到達するおそれのある場合に用いる胴ベルト型の墜落制止用器具です。

本品は労働安全衛生法第42条に基づく、厚生労働大臣が定める「墜落制止用器具の規格」を基に製造したものです。

なお、より適切な墜落制止用器具の選定・使用のため、厚生労働省通達「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン（平成30年6月22日付け基発0622第2号）」の併読をお奨め致します。




- **胴ベルト型**とは、胴ベルトとランヤードを示します。
- **胴ベルト**とは、胴ベルトのみで、ここでは墜落制止するためのものをいいます。
- **ランヤード**とは、ロープまたはストラップに、フックとショックアブソーバを備え胴ベルトと取付設備とを接続する墜落制止用のものをいいます。
胴ベルト型のランヤードは、第一種ショックアブソーバ付きのタイプ1ランヤードです。

も く じ

1. お使いいただく前に	3
2. 安全にお使いいただくために	8
3. 用 途	20
4. 構造および各部のなまえ	21
5. 使 い 方	24
6. 点検と廃棄の基準	28
7. 交換のめやす（耐用期間）	33
8. 保管・手入れのしかた	34
9. 性 能	35
10. お客様相談窓口	36

1. お使いいただく前に

■ 製品の取扱いにおける図記号

	製品の取扱いにおいて、安全を確保するための 禁止行為 を示します。
	製品の取扱いにおいて、安全を確保するために必ず 行うべき行為 を示します。
	製品の取扱いにおいて、安全を確保するための 注意喚起 を示します。

❗ 作業に合った適切な墜落制止用器具であることをご確認ください

適切な墜落制止用器具の選定には、フルハーネス型または胴ベルト型の選択のほか、使用可能質量、ランヤードの仕様(ロック装置付き巻取式)などの選択があります。

この墜落制止用器具及びランヤードの『種類』は胴ベルト型で、ランヤードの『種別』は第一種ショックアブソーバ付きのタイプ1ランヤードです。ご使用前に、ランヤードに表示されている『種類』、『種別』、『最大自由落下距離』、『落下距離』^{※2}、『使用可能質量』^{※3}を見ながら以下の①～⑥項を確認してください。

※1:『自由落下距離』、※2:『落下距離』については、p.4を参照ください。

※3:『使用可能質量』については、p.5、p.10を参照ください。

① 6.75mを超える箇所では、フルハーネス型の使用が義務付けられています

- 高所作業における、墜落による危険を防止するために使用する墜落制止用器具は、フルハーネス型が原則です。

ただし、高さ6.75m以下で、墜落時に作業者が地面に到達するおそれのある場合は、胴ベルト型の墜落制止用器具を使用することができます。

- 一般的な建設作業の場合は5mを超える箇所、柱上作業などの場合は2m以上の箇所では、フルハーネス型の使用が推奨されています。

② 作業床の高さとランヤードに表示の落下距離をご確認ください

- ランヤードには、標準的な使用条件における落下距離が記載してあります。

③ ランヤードの使用可能質量をご確認ください

- ランヤードに表示されている使用可能質量以下でご使用ください。(p.5、p.10参照)

④ 接続する胴ベルトが「墜落制止用器具」であることをご確認ください

- 本ランヤードは、「墜落制止用器具」と表示のある胴ベルトに接続してご使用ください。

⑤ ランヤードの種類をご確認ください

- 本品に2本目のランヤードを取り付ける場合は、種類「胴ベルト型」と表示のあるものをご使用ください。

⑥ 補助ロープ*を用いて二丁掛け仕様で使用する場合の注意事項

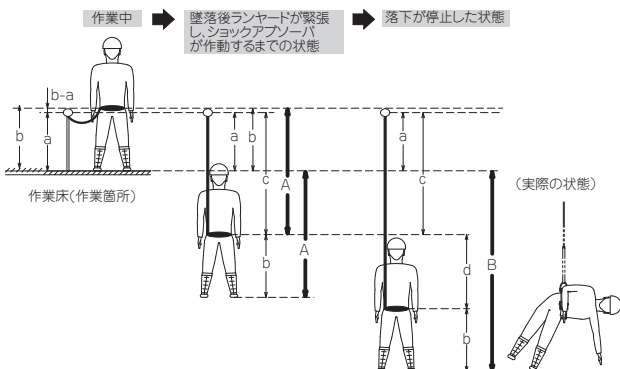
- 補助ロープは、墜落制止用ではありませんので、移動時の掛け替えのみにご使用ください。作業時には、必ず墜落制止用のランヤードに掛け替えてください。
- 補助ロープには、フックに「補助ロープ」と表示がありますので、ご確認ください。

*補助ロープとは、移動時において、主となるランヤードを掛け替える前に移動先の取付設備に掛けることによって、絶えず作業者と取付設備が接続された状態を維持するための、長さ1.3m以下の短いロープまたはストラップです。

自由落下距離・落下距離について

注1：自由落下距離： 作業者が墜落した場合、ランヤードが緊張しショックアブソーバが作動するまでの距離を表します。すなわち、作業者が墜落制止用器具を使用する場合において、胴ベルトにランヤードを接続するD環の高さからフックの取付高さを減じたものを、ランヤードの長さに加えたもの。

注2：落下距離： 作業者の墜落を制止するときに生じるランヤードの伸び、胴ベルトの伸びなどを、自由落下距離に加えたもの。



$$A(\text{自由落下距離}) = c + (b - a)$$

$$B(\text{落下距離}) = c + d + (b - a)$$

$$= A + d$$

(自由落下距離+ショックアブソーバなどの伸び合計)

A：自由落下距離（ランヤードが緊張し、ショックアブソーバが作動するまでの落下距離）

B：作業床（作業箇所）からの落下距離

a：フック取付高さ

b：D環の高さ

c：ランヤード長さ

d：ショックアブソーバ、胴ベルト、ランヤードの伸び合計

b-a：追加落下距離

＜ 最大自由落下距離 ＞

ランヤードに表示の**最大自由落下距離（1.8m）**とは、ショックアブソーバ単体の性能を確認した距離です。

＜ 標準的な使用条件における自由落下距離・落下距離 ＞

$$\text{自由落下距離 A} = 1.8\text{m} = 1.7\text{m} + \underbrace{(0.95\text{m} - 0.85\text{m})}_{\text{追加落下距離 0.1m}}$$

使用可能質量 100kg の場合

$$\text{落下距離 B} = 3.5\text{m} = 1.8\text{m} + \underbrace{(1.0\text{m} + 0.7\text{m})}_{d = d_1 + d_2}$$

使用可能質量 130kg の場合

$$\text{落下距離 B} = 3.7\text{m} = 1.8\text{m} + \underbrace{(1.2\text{m} + 0.7\text{m})}_{d = d_1 + d_2}$$

条 件	使用可能質量	100kg	130kg
(a) フックの取付高さ(手すりの高さ)		0.85m	0.85m
(b) ランヤードと胴ベルトを接続する環の高さ		0.95m	0.95m
(c) ランヤードの長さ		1.7m	1.7m
(d1) ショックアブソーバ(第一種)の伸びの最大値		1.0m	1.2m
(d2) 胴ベルトなどの伸び		0.7m	0.7m

(a)：標準的な使用条件とは、フックの取付高さを0.85mとされています。

(b)：標準的な使用条件とは、ランヤードと胴ベルトを接続する環の作業床などからの高さを0.95mとされています。

(d1)：標準的な使用条件において、落下試験を行ったときのショックアブソーバの伸びの最大値。

(d2)：標準的な使用条件において、落下試験を行ったときの胴ベルトの伸びとずれ、およびランヤードのロープ/ストラップの伸び。



ランヤードに表示の落下距離は、標準的な使用条件(フックの取付高さ0.85m)におけるものです。

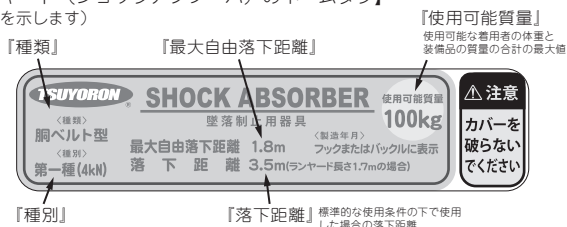
落下距離は、ご使用時のフック取付高さ、ランヤード長さによって異なりますのでご注意ください。(フックの取付位置が高いほど、ランヤードが短いほど落下距離は短くなります)

『種類』、『種別』、『最大自由落下距離』、『落下距離』、『使用可能質量』の表示例

【胴ベルトのネームタグ】
(一例を示します)



【ランヤード（ショックアブソーバ）のネームタグ】
(一例を示します)



❗ 同一メーカーの製品を組み合わせてください

異なるメーカーや型式のものを組み合わせると、十分な強度や機能が得られない場合があります。

❗ 一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず廃棄してください

外見上の変形がなくても、一度でも大きな荷重が加わったものは、再び落下すると衝撃荷重が大きくなり、身体に損傷を及ぼすおそれがあります。また、墜落制止できないおそれがあります。

- 一度でも大きな荷重が加わったものは、ランヤードを含む胴ベルト型墜落制止用器具全体を廃棄してください。

❗ 耐用期間をご確認ください

- 使用頻度、使用環境や保管方法によって異なりますが、使用開始年月からランヤードは2年、ランヤード以外のものは3年をめやすとして新品と取り替えてください。詳しくは「7.交換のめやす(耐用期間)」をご参照ください。

⊘ フルハーネスに取り付けしないでください

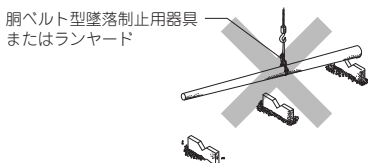
本品のランヤードは、胴ベルト型用です。

フルハーネスに接続して使用すると、衝撃荷重が大きくなり、身体に損傷を及ぼすおそれがあります。

- 「墜落制止用器具」と表示がある胴ベルトに取り付けてご使用ください。

⊘ 墜落制止用ですので他の用途には使用しないでください

- スリングベルトなどの資材をつり上げる用具に代用するなど、他の用途で使用しないでください。



分解・改造しないでください

分解や部品の取り外し、他の部品の組み込みなどの改造は、墜落制止用器具としての性能を十分に発揮できないばかりか、重大事故になるおそれがあります。

また、分解・改造した製品の性能は保証できません。

- ショックアブソーバはランヤードから絶対に外さないでください。
また、カバーを外したり、上からテープを巻き付けたりしないでください。
- ロープの編み直し(さつま編み加工)などをしないでください。
- D環を追加することは、U字つり作業ができる構造となり、誤った使い方になるおそれがあります。

雨の日は感電にご注意ください

ロープなどが雨などに濡れて水分を含むと電気が流れやすくなり、電線などに触れると感電するおそれがあります。また、電気ショートによって溶融するおそれがあります。

使用温度-25℃～50℃の範囲でご使用ください

使用温度-25℃～50℃の範囲外で使用すると、強度が低下し、十分な強度が得られないおそれがあります。また、範囲内の使用であっても、水に濡れるなどして凍結すると、フックの外れ止め装置や安全装置、バックルのスライド部、ワンタッチバックルのロック機能が作動しないおそれがあります。

特に、ショックアブソーバが凍結すると、作動せず、墜落制止時に衝撃荷重が大きくなり、身体に損傷を及ぼすおそれがあります。

- 操作して各部に異常がないことを確認してご使用ください。

特殊な環境下でご使用になる場合は、巻末の「お客様相談窓口」にお問い合わせください

本品を下記のような特殊な環境下で使用すると、性能・機能が十分に確保できないおそれがあります。

- (1) 金属類に錆の発生しやすい海上や海岸地域
- (2) 摺動部の作動に悪影響を及ぼす可能性がある土砂などの付着しやすい現場
- (3) 繊維類の劣化が考えられる高温域の現場
- (4) 酸やアルカリの付着が考えられる現場
- (5) その他、金属・繊維類に悪影響を及ぼす特殊な環境下

2. 安全にお使いいただくために

■ 製品の取扱いにおける警告表示

本取扱説明書では、危害発生の頻度と程度を「危険」「警告」「注意」で示しています。



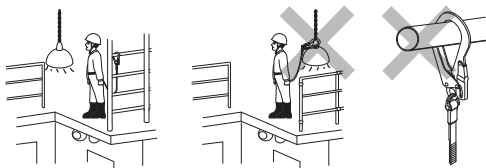
危険

取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性が非常に高くなります。

❗ ランヤードが外れたり、抜けたりしない堅固な構造物に取り付けてください

電灯線など弱い構造物に取り付けると、墜落制止時の衝撃荷重で構造物が破損し、墜落する危険性があります。構造物の端が開放状態の構造物では、墜落制止時にフックが移動し、ランヤードが抜け落ちる危険性があります。

- ランヤードは構造物から抜けたり、破損したりする危険性がなく、墜落制止時の衝撃荷重に十分耐える堅固なものを選んで取り付けてください。



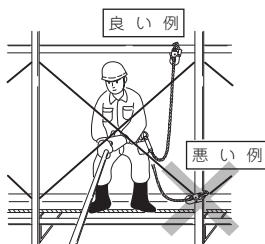
❗ 構造物側フックは腰より高い位置に取り付けてください

フックの取付位置が腰より低い場合は、使用できません。

構造物側フックを腰より低い位置に掛けた状態で墜落制止した場合、衝撃荷重が大きくなり、身体に損傷を及ぼすおそれがあります。

また、ランヤードが切断する危険性があります。

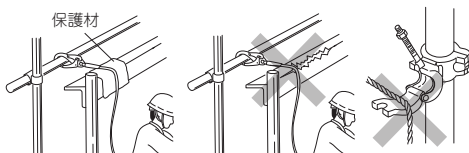
- 腰より高い位置にフックを掛けてご使用ください。



❗ ランヤードが鋭い角に触れないようにしてください

墜落制止時に鋭い角でロープやストラップなどが切断する危険性があります。

- ランヤードが鋭い角に触れる危険性のある所では使用しないでください。
- 鋭い角のある構造物を避けてランヤードを掛けるか、または構造物に丈夫な布などの保護材を巻いて養生してからご使用ください。





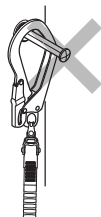
危険

取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性が非常に高くなります。



構造物側フックをステップボルトに掛けしないでください

フックが抜けたり、墜落制止時にステップボルトが曲がったり折損したりして、重大事故になる危険性があります。



ショックアブソーバ付き胴ベルト型ランヤードを組み合わせてください

- 胴ベルトに組み合わせるランヤードは、墜落制止用器具の要件を満たす、ショックアブソーバ付きのものをご使用ください。



U字つり作業に使用しないでください

本ランヤードは、ワークポジショニング用ロープ（U字つり作業用）ではありません。

本ランヤードでU字つり作業をすると、強度不足などで重大事故になる危険性があります。

- U字つり作業にはワークポジショニング用器具をご使用ください。

【フックハンガーをご使用の場合】



フックハンガーをD環の代わりに使用しないでください

フックハンガー（またはランヤードホルダー）は、休止フック（構造物に掛けていないランヤードのフック）をつり下げるためのものです。フックハンガー（またはランヤードホルダー）をD環の代わりに使用した場合、墜落制止時にフックハンガーが外れたり、壊れて重大事故になる危険性があります。

- D環の代わりとして使用しないでください。



【二丁掛け仕様の場合】



どちらか一方のランヤードが構造物と連結しているようにしてください

どちらか一方のランヤード（または補助ロープ）を掛ける前にもう一方のランヤードを外すと構造物との接続がなくなり、墜落する危険性があります。

- 移動したい所にランヤード（または補助ロープ）を取り付けてから、これまで掛けていたランヤードを外して移動します。フックを掛け替える時は、必ずどちらか一方のランヤード（または補助ロープ）が構造物に掛かっているようにしてください。
- 補助ロープは墜落制止用ではありませんので、移動時の掛け替えのみにご使用ください。作業時には、必ず墜落制止用のランヤードに掛け替えてください。



取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う
可能性があります。



使用可能質量(体重+装備質量)^{注3}以下でご使用ください

作業者の体重と装備品全ての合計質量が、ランヤードに表示されている使用可能質量を超えると、墜落制止時に大きな荷重が加わり重大事故になるおそれがあります。

- 使用可能質量を確認のうえ、使用可能質量以下でご使用ください。
また、ランヤードを交換・追加する場合にも、組み合わせるランヤードの使用可能質量を確認のうえ、作業者の体重と装備質量の合計が超えないようにしてください。
- 二丁掛け仕様に変更した場合で、それぞれのランヤードの使用可能質量が異なる場合は、小さい方の使用可能質量以下でご使用ください。

^{注3}：使用可能質量(体重+装備質量)：体重と装備品全ての合計質量の最大値



表示されている最大自由落下距離以下でお使いください

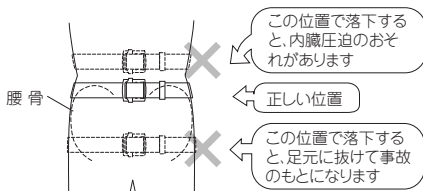
手すり高さ0.85mより低い位置にフックを掛けて使用すると、ランヤードに表示されている最大自由落下距離を超え、ショックアブソーバの性能を超えますので、身体に損傷を及ぼすおそれがあります。



取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性があります。

！ 胴ベルトは腰骨の所に締めてください

- 胴ベルトは腰骨の近くで、墜落制止時に足部の方に抜けない位置でしかも胸部へずれないように確実に装着してください。

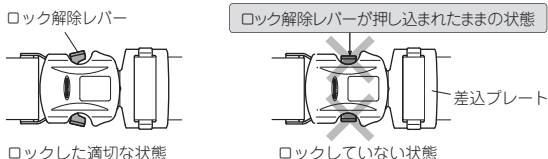


【ワンタッチバックル仕様の場合】

！ 差込プレートが確実にロックされていることを確認してください

差込プレートが確実にロックされていないと、墜落制止時に差込プレートが本体から抜けて重大事故になるおそれがあります。

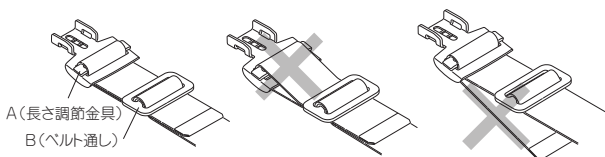
- 差込プレートは両側のロック解除レバーが、下左図に示すロックした適切な状態になるまで（「カチッ」と音がするまで）差し込んでください。連結後、ベルトを左右に引っ張って差込プレートが確実にロックされていることをご確認ください。
- 保護服の上に装着する場合は、保護服を挟み込まないように注意してください。



【ワンタッチバックル仕様の場合】

！ 胴ベルトを差込プレートの長さ調節金具とベルト通しに正しく通してください

ベルトの通し方を間違えると、墜落制止時にベルトが差込プレートから滑り抜けて、重大事故になるおそれがあります。



- ベルトを差込プレートのA(長さ調節金具)の部分とB(ベルト通し)に通し、ベルトの先端部が外側になるように正しく通してください。



取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性があります。

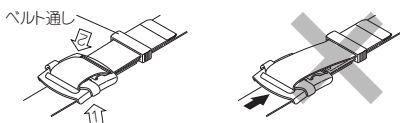
【スライドバックル仕様の場合】

❗ 胴ベルトをバックルに正しく通してください

ベルトの通し方を間違えると、墜落制止時にベルトがバックルから滑り抜けて、重大事故になるおそれがあります。

誤ってバックルの刻印②の所にベルトを通さず使用すると、障害物に引っ掛かるなど、バックルの先端部に矢印➡方向の力が軽く加わるだけで、ベルトが緩みバックルから抜けます。

- ベルトをバックル裏側の刻印①から表側の刻印②の順に正しく通し、その後、余長部をベルト通しに通してください。



❗ フックは正しく掛けてください

誤った掛け方をすると、フック本体が変形して外れ、墜落するおそれがあります。また、ロープなどがねじれた状態でフックの外れ止め装置に絡むと、外れ止め装置が変形・破断して外れることがあります。

- 外れ止め装置や安全装置がねじられたり部材で押されたりして、フックが取付部から外れないように取り付けてください。
- フックは、墜落制止時に折れ曲がったり、外れ止め装置および安全装置に荷重が加わらないように、フックの主軸の方向と、墜落制止時にかかる力の方向が一致するように取り付けてご使用ください。
- 回し掛けは鋭角部を避け、フックに横方向の曲げ荷重が加わらないように、また、さつま編込部や縫製部保護チューブなどが屈曲しないように掛けてください。(p.13参照)
- フックが正しく掛かっているか(外れ止め装置の閉じ・安全装置が構造物との接触で押されていないかなど)目視で確認したうえで、引っ張って外れないことや、確実に連結されていることを確認してください。
- 外れ止め装置と安全装置を正しく握って、掛け外しをしてください。
- フックを掛ける時、外れ止め装置を打ちつけないでください。
- コネクタ(フック・カラビナ)同士を連結しないでください。

(フックの形状と掛け方は一例を示します)

	一般型フック		大 口 径 フ ッ ク		
	直接掛け	回し掛け	直接掛け	回し掛け	穴掛け(ボルト穴など)
正しい掛け方					
誤った掛け方					



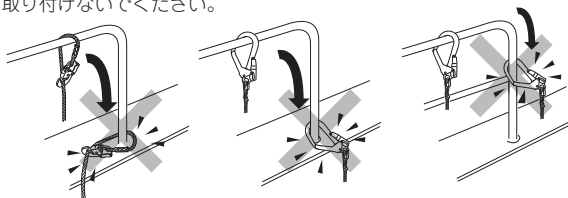
警告

取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性があります。

❌ フックが滑り落ちるような箇所に取り付けないでください

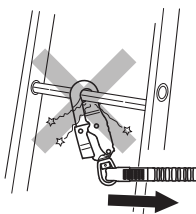
墜落制止時に滑り落ちたフックが、破損するおそれがあります。
また、フックが滑り落ちることによって、落下距離が長くなり、衝撃荷重が大きくなって身体に損傷を及ぼすおそれがあります。

- L字形の手すりや斜めの構造物など、フックが取付位置から滑る箇所には取り付けないでください。



❗ フックの外れ止め装置に横荷重が加わらないようにご使用ください

構造物にフックを掛けた時、ランヤードを横方向に引っ張るとフックの外れ止め装置が変形し、フックの機能を損なうおそれがあります。



❌ 屈曲としごき加わる使い方はしないでください

特に、ロープのさつま編込部・さつま編込部際に過度の屈曲としごきが繰り返されると、型崩れや緩みが生じ抜けるおそれがあります。
また、ストラップの縫製部・縫製部際も縫製部保護チューブが破損し、縫製部が著しく摩耗し強度低下につながります。



❗ フックは腰より上のできるだけ高い位置に取り付けてください

フックの取付位置が低いと、墜落制止時に落下距離が長くなり、衝撃荷重が大きくなって身体に損傷を及ぼすおそれがあります。

- フックの取付位置は高い方が落下距離が短くなりますので、腰より上のできるだけ高い位置に取り付けてください。

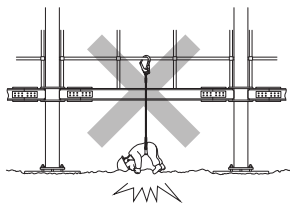
警告

取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性があります。

❗ フックは墜落制止時に地面に衝突しない高さの構造物に取り付けてください

墜落制止時には、ショックアブソーバが作動し伸びますので、フックの取付位置が低いと、身体が地面や下方の障害物に衝突し、身体に損傷を及ぼすおそれがあります。

- 作業床の高さが低い場合は、フックの取付位置を高くするなどの措置をとってください。
- 標準的な使用条件における落下距離がランヤードに表示されています。ご使用前にご確認いただき、表示の落下距離を考慮してご使用ください。
- アンカーに水平親綱などを利用する場合は、落下距離に水平親綱のたわ(撓)み量を加算してください。

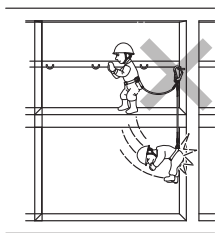


❗ フックは腰より高い位置の水平親綱に掛けてください

- 腰より高い位置で、十分な張力を加えて張った水平親綱に、フックを掛けてください。

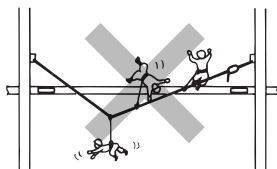
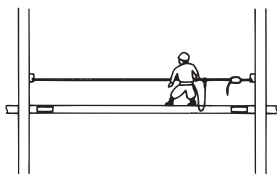
❗ 振り子状態にならない位置にフックを取り付けてください

墜落制止時に障害物に衝突して、身体に損傷を及ぼすおそれがあります。



❗ 垂直・水平親綱の1スパンを使用する作業者は1名としてください

墜落制止時に、友引き状態になり、他の作業者も同時に落下するおそれがあります。





取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性があります。

⊘ 酸（バッテリー液など）・アルカリを付着させないでください

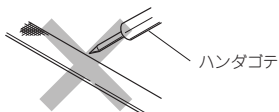
ロープなどの合成繊維部品は、酸・アルカリで溶解して、ロープなどの強度が低下し、十分な強度が得られず、墜落制止できないおそれがあります。

- 塗料などの汚れを取る場合には、強度低下をまねく溶剤は使用しないでください。

⊘ 高温部に近づけないでください

ロープなどの合成繊維部品は、熱によって熔融して強度が低下し、十分な強度が得られず、墜落制止できないおそれがあります。

特に、ナイロン製布カバー仕様のショックアブソーバ（内部のベルト）は熱に弱い特性がありますので注意してください。



【ナイロン製布カバーの場合】

⊘ ショックアブソーバのカバーが破れたランヤードは使用しないでください

ナイロン製布カバーのショックアブソーバのカバーが破れるなどして、ショックアブソーバ内のベルトが露出すると、摩耗や紫外線などの影響で著しく強度が低下するおそれがあります。

- ショックアブソーバのカバーに破れがあるものは、ランヤードを交換してください。



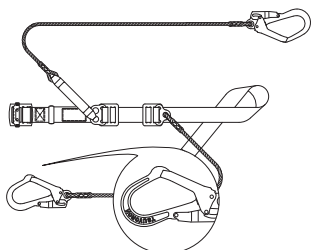
取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性があります。

❗ 二丁掛け仕様にする場合はU字つりできない適切な組み合わせにしてください

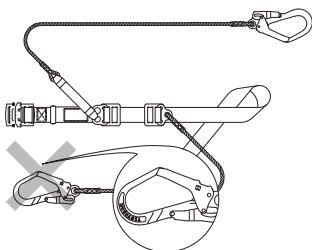
- この胴ベルト型墜落制止用器具に2本目のランヤード（または補助ロープ）を追加した場合、または、このランヤードを2本目のランヤードとして追加すると、U字つりできる構造になる場合は危険ですので二丁掛け仕様にしないでください。

詳しくは、巻末の「お客様相談窓口」までお問い合わせください。

(1)U字つりできない適切な組み合わせ (2)U字つりできる危険な組み合わせ

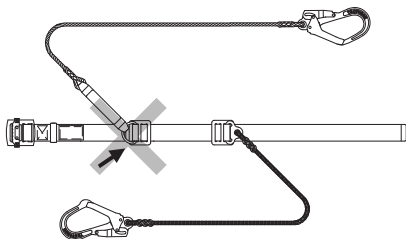


U字つり防止フック



ランヤード（または補助ロープ）のフックが、B環（ロリップ環）に掛かる。

- ランヤードがD環付の場合は、2本目のランヤード（または補助ロープ）のフックがU字つり防止フックであってもD環に掛かるので、U字つりができる危険な組み合わせとなります。

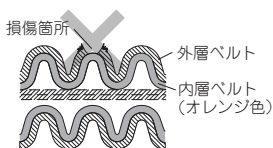


【ノビロン式の場合】

⊘ ノビロンの内層ベルトが見えているものは使用しないでください

ノビロンは、外層ベルトと内層ベルトの二層構造です。

外層ベルトの摩耗・損傷などによって、外見からオレンジ色の内層ベルトが見えているものは、廃棄基準に該当します。





警告

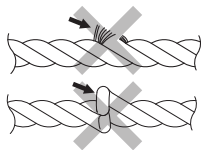
取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性があります。

【三つ打ちロープ式の場合】

❌ 損傷やキンクのあるものは使用しないでください

ロープに損傷やキンクのあるものは強度低下しているおそれがあります。

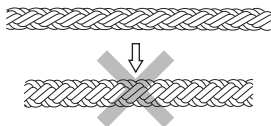
- ロープの捩れは速やかに取り除き、極端に屈曲しないように収納して、キンクの発生を抑えてください。



【八つ打ちロープ式の場合】

❌ ロープの縮みが大きく、径が太くなったものは使用しないでください

特に八つ打ちロープは自然収縮が起きやすい構造です。縮みが大きく径が太くなっているロープは、強度が低下しているおそれがあります。



【両端フック付きランヤードの場合】

❗ 人体側フックをD環に接続してください

ショックアブソーバに接続されているフックが人体側フックです。

誤って、人体側フックを構造物に掛けて使用すると、墜落制止時にショックアブソーバが機能せず衝撃荷重が大きくなって、身体に損傷を及ぼすおそれがあります。

また、十分な強度が得られず墜落制止できないおそれがあります。

【両端フック付きランヤードの場合】

❗ D環にフックが確実に掛かっていることを目視で確認してください

D環に作業服などが被さっているおそれがあります。

- フックがD環に正しく掛かっていることを必ず目視で確認のうえ、フックを引っ張り確実に接続できていることをご確認ください。



注意

取扱いを誤ると、軽傷を負ったり、物的損害が発生する可能性があります。



ベルトに摩耗箇所がないことを確認してください

付属品との接触によってベルトに摩耗が生じる場合があります。

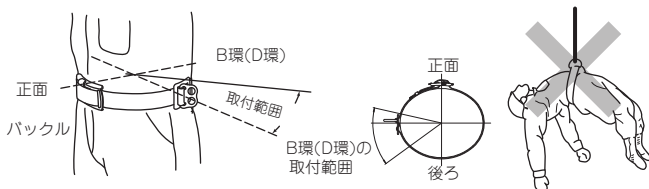
- 点検の際には、腰袋などの付属品によって隠れている部分にも摩耗箇所がないことをご確認ください。



B環(D環)が、横か斜め後ろになるように装着してください

B環(D環)の位置を腰骨より前側にすると、墜落制止時に背骨に負担がかかり、身体に損傷を及ぼす場合があります。

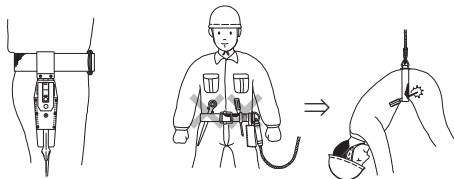
- B環(D環)は、ランヤードの接続状態が確認できる身体の横か、斜め後ろでご使用ください。



工具類は腰袋へ収納してください

胴ベルトの内側にシノなどを差しておくと、墜落制止時に身体に損傷を及ぼす場合があります。

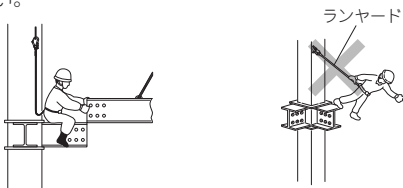
- 工具類は必ず腰袋、シノはシノ差しへ入れてください。



胴ベルト型墜落制止用器具に体重を預けないでください

体重を預けると胴ベルトおよびランヤードが損傷して強度が低下したり、バランスをくずして落下する場合があります。また、ショックアブソーバに収納されたベルトがカバーから抜け出して損傷する場合があります。

- 体重を預ける作業には、別売りのワークポジショニング器具をご使用ください。





注意

取扱いを誤ると、軽傷を負ったり、物的損害が発生する可能性があります。

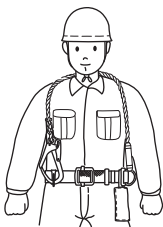


丁寧に扱ってください

丁寧に扱わないと破損する場合があります。

異物が付着したり、ワンタッチバックルなどの組立部品の内部に混入したりすると、ばねなどの部品が破損や変形し、作動不良を起こす場合があります。また、ロープなどの合成繊維部品が摩耗して強度が低下します。

- 本品を引きずらないでください。
- 使用しない時はランヤードを肩に掛けるか、ランヤード収納袋に入れ、砂・土・水の混入・接触を避けてください。
- ロープなどに結び目を作らないでください。強度が低下します。
- 放り投げたり、物品の下積みにしたりしないでください。



屋外に放置しないでください

ロープなどの合成繊維部品は、紫外線によって強度が低下します。

【ノピロン式の場合】



ノピロンが損傷・摩耗しやすい使い方や、硬化しやすい環境での使用に注意してください

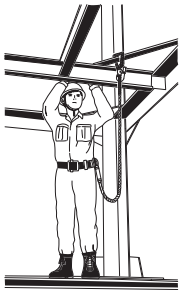
ロープと比べ、ノピロンは損傷・摩耗しやすく、使用環境の影響を受けやすい性質があります。

特にストラップ表面が硬化して柔軟性が低下したものは、劣化しやすく強度低下の進行が早くなります。

- 構造物などとの接触は摩耗の原因となりますので避けてください。
- 鉄粉、砂、泥、埃などが付着したままにしておくと劣化が早くなりますので、汚れを取り除いてください。
- 「6. 点検と廃棄の基準」に従って十分に点検してください。

3. 用 途

胴ベルト型墜落制止用器具の使用例及び用途は、次のとおりです。

使 用 例	用 途
	<p>高さ2 m以上の足場のある高所作業において、フルハーネス型の使用では墜落時に作業者が地面などに到達するおそれのある場合に使用する墜落制止用器具です。</p> <p>フックの取付設備が、腰より高い位置にある作業環境で使用します。</p> <p>ランヤードに体重を預けないで作業ができる場合に使用します。</p>



本品は、胴ベルト型墜落制止用器具です。
フックの取付設備が腰より低い場合には使用できません。



胴ベルト型墜落制止用器具は、身体を保持する作業には使用できません。



ランヤードのみをお買い上げの場合は、「墜落制止用器具」と表示がある胴ベルトに組み合わせてご使用ください。

4. 構造および各部のなまえ

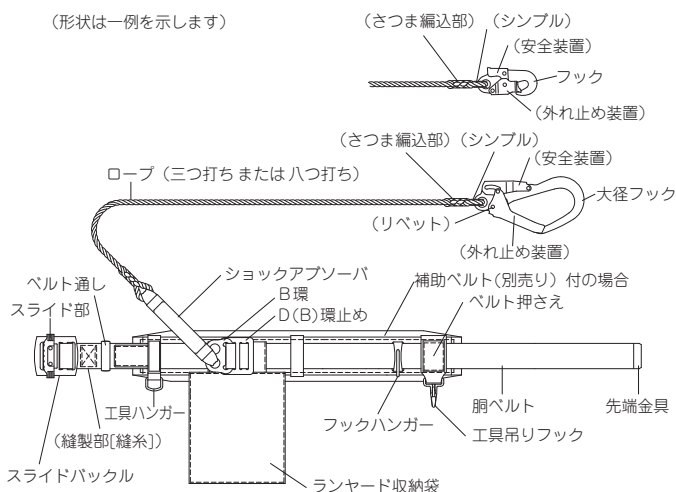
本品は、バックルが付いた胴ベルトにB環（D環）を備えた胴ベルト型ランヤードを取り付けた胴ベルト型墜落制止用器具です。

この取扱説明書では、下記の胴ベルト型墜落制止用器具および胴ベルト型ランヤードについて説明します。ランヤードには以下の種類があります。

ランヤードの種類	特 長
ロープ式	スタンダードタイプで、三つ打ちロープを使用しています。八つ打ち仕様もあります。
ノビロン式	伸縮ストラップ（2層構造）を使用しています。使わない時は縮んでいますので、移動時の引っ掛かりを軽減できます。
ブレード式	ブレードロープ（束にした芯の周りを糸で編み包んだ構造のロープ）を使用しています。キンクが生じません。
ストラップ式	ストラップ（平ベルト）を使用しています。ロープに比べしなやかで扱い易くキンクが生じません。

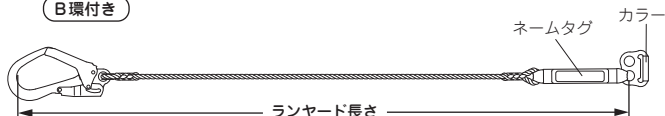
胴ベルト型墜落制止用器具 ロープ式の全体図（B環付）（補助ベルト付）

（形状は一例を示します）

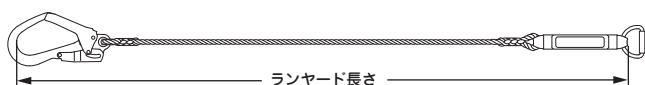


ランヤードのみ

B環付き

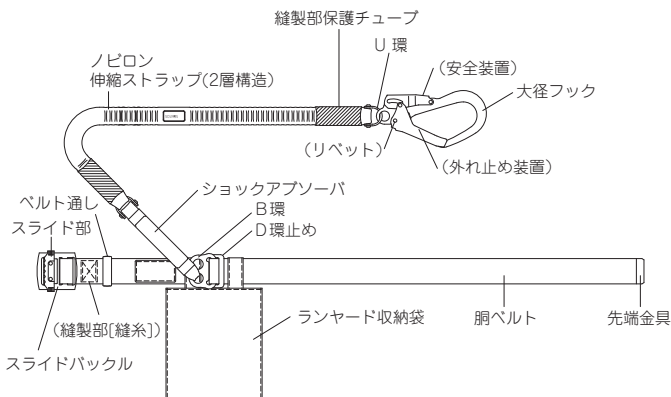


D環付き



胴ベルト型墜落制止用器具 ノビロン式の全体図（B環付）

（形状は一例を示します）

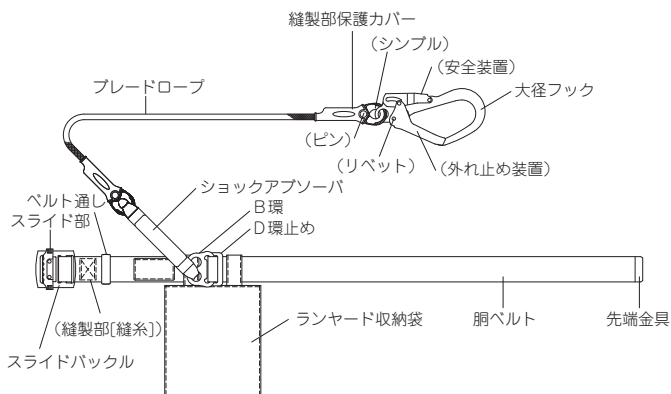


ランヤードのみ

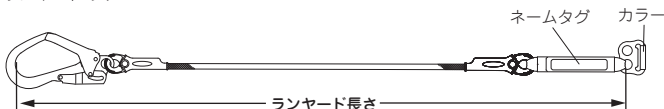


胴ベルト型墜落制止用器具 ブレード式の全体図（B環付）

（形状は一例を示します）

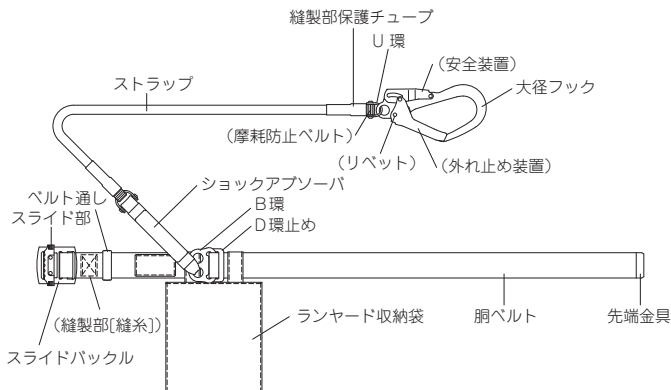


ランヤードのみ

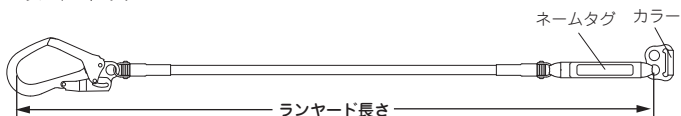


胴ベルト型墜落制止用器具 ストラップ式の全体図（B環付）

（形状は一例を示します）

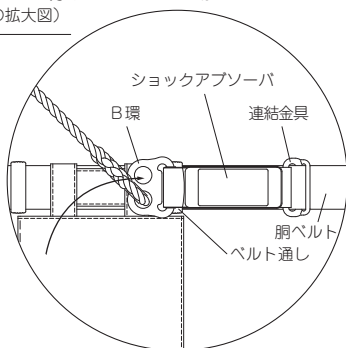


ランヤードのみ



胴ベルト取付型ショックアブソーバ付きランヤードの場合

（ショックアブソーバ取付け部分の拡大図）



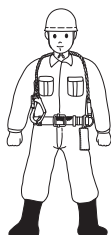
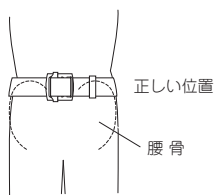
ランヤードの取付部は「B環」または「D環」付きのものがあります。B環付きの場合は、別売りのU字つり防止フック付きのランヤードまたは補助ロープを取り付けることで、二丁掛けへ発展可能な構造となっています。ただし、ランヤードがD環付きの場合は、2本目のランヤードを取り付けると「U字つり」使用できる構造になり危険ですので、二丁掛け仕様にしないでください。

購入後は取扱説明書を読んで、構成部品がそろっていること、異常がないことをご確認ください。構成部品に不足や異常があった場合は、巻末の「お客様相談窓口」へご連絡ください。

5. 使 い 方

胴ベルトを締める位置

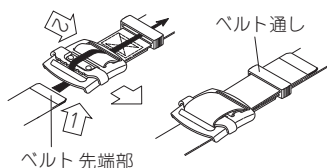
胴ベルトは腰骨の所の正しい位置に締めてください。
(右図参照)



各種バックルの使い方

スライド式

スライドバックルの裏側の刻印①の所にベルト先端部を通し、次に表側の刻印②の所に入れます。その後、ベルト通しに通します。



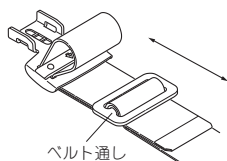
ワンタッチ式

(1) 胴ベルトの長さ調節

ベルトが腰骨の所の正しい位置に、しっかりと締まる長さに調節し、その後、ベルト通しに通します。



あらかじめ長さを調節のうえ
装着ください。



(2) 連結するとき

片方の手でワンタッチバックル本体を保持して、差込プレートを本体の奥に当たるまで(「カチッ」と音がするまで)差し込みます。

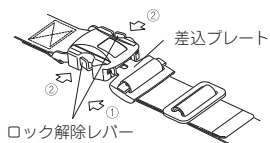


両側のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認のうえ、さらにベルトを左右へ引っ張って、差込プレートがロックされていることを確認します。(p.11参照)



(3) 外すとき (下図参照)

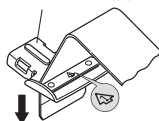
- ① 差込プレートを本体側に押し込みます。
- ② 同時にロック解除レバーを押さえると差込プレートが外れます。



ベルトを差込プレートから外した場合の通し方

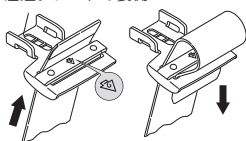
- ① 裏側の刻印  の所にベルト先端を通します。

差込プレートの裏側




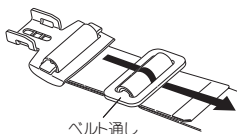
- ② 次に表側の刻印  の所にベルト先端を通します。

差込プレートの表側



- ③ ベルト通しに胴ベルトを通します。

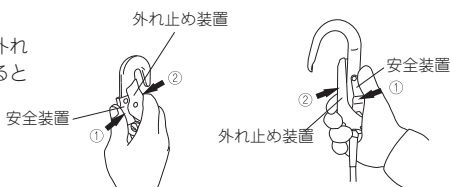
胴ベルトの先端は、差込プレートとベルト通しに通します。
 胴ベルトを締めるときベルト折返し部が外側になるように正しく通してください。



フックの操作方法

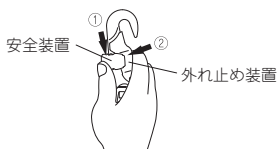
センターロック型

先ず安全装置、その後外れ止め装置を連続して握ると開口します。



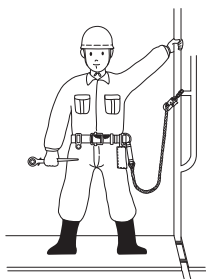
サイドロック型

先ず安全装置を矢印方向に押し、その後外れ止め装置を握ると開口します。

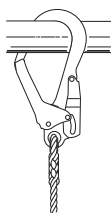


構造物側フックの掛け方

構造物側フックは腰より高い位置の堅固な構造物などに**直接掛け**をしてください。



直接掛け



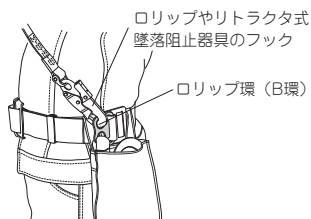
回し掛け



回し掛けについての注意事項は、p.12参照ください。

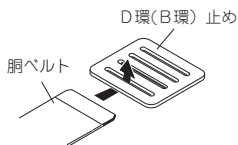
ロリップ環の使い方

昇降時にロリップやリトラクタ式墜落阻止器具のフックを接続します。

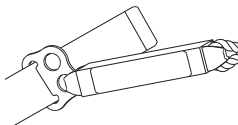


ランヤードを胴ベルトに取り付ける方法（ランヤードをお買い上げの場合）

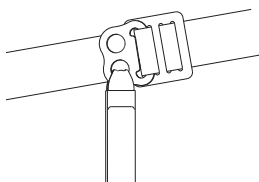
- ① お手持ちの胴ベルトをD環止めに図のように通します。



- ② 胴ベルトの先端をB環(D環)に通します。



- ③ 胴ベルトの先端をD環止めに図のように通します。（取付完了）



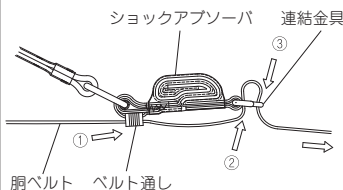
胴ベルト型墜落制止用器具がD環付きの場合は、2本目のランヤードを追加しないでください。（p.16参照）

ランヤードを胴ベルトに取り付ける方法（胴ベルト取付型ショックアブソーバ付きランヤードの場合）

胴ベルトをランヤードのベルト通しに通します。
次に連結金具に通します。

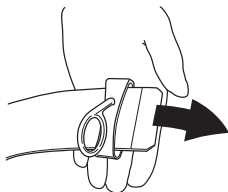


必ず連結金具に通してください。



フックハンガー（R-19）の取付方法（フックハンガー付きの場合）

フックハンガーのベルト通し穴に胴ベルトを通します。



6. 点検と廃棄の基準

- 一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず、廃棄してください。
- 本品は消耗品であり、使用しているうちに摩耗などによって性能が低下します。したがって、点検において**1項目でも廃棄基準に該当するものは、機能不良や強度不足になりますので新品と取り替えてください。**
- 使用経験の少ない作業者は、管理者または経験者と共に使用前後の点検を行ってください。
- 責任者を定めるなどの方法で確実に点検を行い、その内容を管理台帳に記録してください。

始業点検：使用する作業者が作業前に毎回行ってください。













点検後、地上で本品を装着し、異常がないことを確認してください。


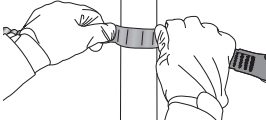
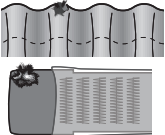
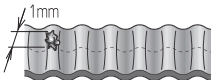




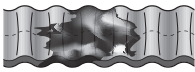


定期点検：使用する作業者もしくは管理者・責任者が1カ月ごとに行ってください。

異常時点検：作業中、本品に異常を感じたら直ちに作業を中止し、再点検を行ってください。

◎：最重要点検項目 ○：重要点検項目

点検箇所・項目		点 検 方 法 と 廃 棄 基 準		始業 点検	定期 点検
胴 ベ ル ト	バックル	スライド 	変形によってベルトが締まらないもの。	◎	◎
			本体・差込プレートが変形・摩滅しているもの。(ワンタッチのみ)	◎	◎
			変形やばねの折損などによって、ロック解除レバーが元に戻らず、差込プレートがロックできないもの。(ワンタッチのみ)	◎	◎
			深さ1mm以上の傷や摩滅があるもの。	○	◎
			ベルト噛合部が摩滅して、腹部に力を入れるとベルトが緩むもの。	◎	◎
		ワンタッチ 	ワンタッチバックルのカバーが破損しているもの。(カバーの取替)	○	◎
			ばねが折損または脱落してベルトが緩むもの。(スライドのみ)	◎	◎
			リベットの頭部が1/2以上摩滅しているもの。	○	◎
			リベットかしめ部にガタがあるもの。	○	◎
			全体に赤錆または著しい腐食が発生しているもの。	○	◎
ベルト		耳または幅の中に3mm以上の損傷・焼損・擦り切れがあるもの。	◎	◎	
		全体的に摩耗・毛羽立ち・著しい汚れがあるもの。(素手で確認)	◎	◎	
		バックル把持部に著しい毛羽立ちがあるもの。	◎	◎	
		ベルトがねじれたままのものや、ねじれを解消してもベルトが曲がってよじれたままのもの。	◎	◎	
		付属品などに隠れる部分が摩耗しているもの。	◎	◎	

点検箇所・項目		点 検 方 法 と 廃 棄 基 準	始業 点検	定期 点検
胴 ベ ル ト	ベルト	塗料などが著しく付着して、硬化しているもの。	◎	◎
		薬品が付着したもの。 薬品によって変色・溶解箇所があるもの。	◎	◎
	縫製部	 変形 先端金具が脱落してベルトがほつれているものや、変形してバックルに通らないもの。	○	◎
		 切断箇所 縫製部に緩みやほつれがあるものや縫糸が摩耗したり1個所以上切断しているもの。	○	◎
	ベルト 通し	 胴ベルトから脱落しているもの。	○	◎
		変形・亀裂があるもの。	○	◎
		1mm以上摩耗しているもの。	○	◎
フック ラ ン ヤ ー ド	フック	 変形 変形によって 外れ止め装置が完全に開閉しないもの。	◎	◎
		完全に閉じ ないもの  完全に開か ないもの 	◎	◎
		変形によって安全装置が作動しにくいもの。	◎	◎
		外周に深さ1mm以上の傷や摩滅があるもの。	○	◎
		かき部の内側に傷があるもの。	○	◎
		 キズ リベット 安全装置 ばねが変形または折損・脱落して外れ止め装置が完全に開閉しないもの。	◎	◎
		連結環の回転部に0.8mm以上の隙間があるもの。	◎	◎
		ナットの遊びが大きいもの。	◎	◎
		リベットの頭部が1/2以上摩滅しているもの。	○	◎
		リベットかしめ部にガタがあるもの。	○	◎
		全体に赤錆または著しい腐食が発生しているもの。	○	◎
	ロープ 三つ打ち ストランド ヤーン 八つ打ち ストランド ヤーン	 7ヤーン以上（1リード内）の切傷・ 焼損・溶融箇所があるもの。	◎	◎
		 摩耗して、棒状になったもの。	◎	◎
		 キンクまたはヤーンの異常な飛び出しや 型崩れがあるもの。	◎	◎
		 シンプルが変形したり脱落しているもの。	○	◎
		塗料などが著しく付着して、硬化しているもの。	◎	◎
		薬品が付着したもの。 薬品によって変色・溶解箇所があるもの。	◎	◎
		 さつま編みが緩んでいるものや抜けて いるもの。（3回未満になっているもの）	◎	◎
		型崩れが進みストランドに乱れが生じ、 端末部の余長が引き込まれているもの。 （余長が2cm以下になっているもの）	◎	◎

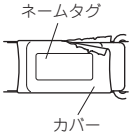



点検箇所・項目		点検方法と廃棄基準	始業点検	定期点検
ラン ン ヤ ー ド	ロープ	 縮みが大きく、径が太くなっているもの。	○	○
		使用開始から2年を経過しているもの。 (損傷がなくても紫外線によって強度が低下します。)	○	○
	ノビロン	<p>パイプの上に蛇腹(山と谷)が伸びるように被せ、ノビロンの両面を観察してください。</p> 		
			○	○
			○	○
		<p>摩耗</p>  <p>毛羽立ち</p> 	○	○
			○	○
			○	○
			○	○
			○	○
		<p>縫製部保護チューブ</p> 	○	○
		<p>使用開始から2年を経過しているもの。 (損傷がなくても紫外線によって強度が低下します)</p>	○	○

より詳しいノビロン(伸縮ストラップ)の廃棄基準は、下記の弊社ホームページまたは右記のQRコードからご覧いただけます。

https://www.fujii-denko.co.jp/pdf/noviron_tenken.pdf



点検箇所・項目		点 検 方 法 と 廃 棄 基 準	始業点検	定期点検
ラ ン ヤ ー ド	ブレード ロープ	 外層の損傷・焼損・擦り切れなどによって、芯材(白色)が露出しているもの。	○	○
		 型崩れがあるもの。	○	○
		 縮みが大きく、径が太くなっているもの。	○	○
		塗料などが著しく付着して、硬化しているもの。	○	○
		 薬品が付着したもの。 薬品によって変色・溶解箇所があるもの。	○	○
		使用開始から2年を経過しているもの。 (損傷がなくても紫外線劣化によって強度が低下します。)	○	○
	シンプル	 シンプルが脱落しているもの。	○	○
		 シンプルに目視でわかる程度の大きな変形があるもの。	○	○
	カバー	 縫製部保護カバーが破損、または脱落しているもの。	○	○
	止めピン	 止めピンが外れ、縫製部保護カバーを固定できないもの。	○	○
	縫製部	縫製部に緩みやほつれがあるものや、縫糸が1個所以上切断しているもの。	○	○
	ストラップ	 耳または幅の中に1mm以上の損傷・焼損・擦り切れがあるもの。	○	○
		全体的に摩耗・毛羽立ち・著しい汚れがあるもの(素手で確認)。	○	○
		 塗料などが著しく付着して、硬化しているもの。	○	○
		薬品が付着したもの。 薬品によって変色・溶解箇所があるもの。	○	○
		 波打ち状や変形しているもの。	○	○
		摩耗防止ベルトが破損し、内部のストラップが露出しているもの。	○	○
		 縫製部保護チューブが破損、または脱落しているもの。	○	○
		 縫製部に緩みやほつれがあるものや縫糸が1個所以上切断しているもの。	○	○
		使用開始から2年を経過しているもの。 (損傷がなくても紫外線によって強度が低下します。)	○	○

点検箇所・項目		点 検 方 法 と 廃 棄 基 準	始業 点検	定期 点検
ラ ン ヤ ー ド	ショック アブソーバ	カバーが破れて中のベルトが露出しているもの。 (テープなどを巻き付けしないでください)	○	○
		【ナイロン製布カバーの場合】 カバーが破れているもの。 (テープなどを巻き付けしないでください)	○	○
		 両端のベルトが著しく摩耗しているもの や傷があるもの。	○	○
		大きな荷重を受け作動したもの。	○	○
		塗料などが著しく付着して、硬化しているもの。	○	○
		薬品が付着したもの。 薬品によって変色・溶解箇所があるもの。	○	○
		縫製部に緩みやほつれがあるものや、縫糸 が1個所以上切断しているもの。	○	○
		ネームタグに記載の内容が確認できないもの。	○	○
	B 環 D 環 連結環	目視でわかる程度の大きな変形があるもの。	○	○
		深さ1mm以上の傷や摩滅があるもの。	○	○
		カラーが破損または脱落し、環の動きが スムーズでないもの。	○	○
		 リベットの頭部が1/2以上摩滅 しているもの。 	○	○
		リベットかしめ部にガタがあるもの。	○	○
		全体に赤錆または著しい腐食が発生して いるもの。	○	○
	フック ハンガー	 変形または破損しているもの。 (フックハンガーを交換してください)	○	○

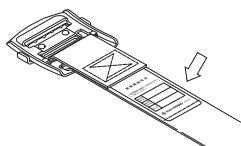
廃棄について：金属部品と合成繊維部品（またはプラスチック）は分別して
廃棄処理してください。

7. 交換のめやす（耐用期間）

使用頻度、使用環境や保管方法などによって異なりますが、使用開始年月からランヤードは2年、ランヤード以外のものについては3年をめやすとして新品と取り替えてください。

ただし、耐用期間内であっても「**6.点検と廃棄の基準**」に従って点検を必ず実施し、廃棄基準に該当するものは使用しないで、新品と取り替えてください。また、一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず、廃棄してください。

- 責任者を定めるなどの方法で確実に交換を行い、その内容を管理台帳に記録してください。
- 使用を開始した年月を、バックル取付部のネームタグに必ず記入してください。（下図参照）
- ランヤードなどを取り替えた時は、その年月をネームタグに必ず記入してください。



8. 保管・手入れのしかた

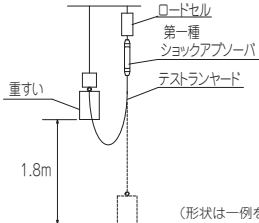
- (1) 次のような場所で保管してください。
 - ア) 直射日光に当たらない所。
 - イ) 風通しがよく、湿気が少ない所。
 - ウ) 火気・放熱体などが近くにない所。
 - エ) 腐食性物質と同室でない所。
 - オ) 塵埃の少ない所。
 - カ) ねずみなどの小動物が入らない所。
 - キ) その他、機能・強度に悪影響を及ぼさない所。
- (2) 高温（50℃以上）となる場所に長時間保管しないでください。
- (3) 物品の下積みなどによって傷や変形が起こらないようにしてください。
- (4) 使用後は次のように手入れを行ってください。また、使用していない期間が続いても定期的に手入れを行ってください。
 - ア) フックなどの金具部品が水などに濡れた場合は、よく拭き取ってください。付着した泥・砂・埃などは取り除いてください。可動部には時々注油してください。
 - イ) ロープなどの合成繊維部品が汚れている場合は、水を含ませた布などで軽く叩いて汚れを布に移してください。その後、直射日光の当たらない風通しのよい所で自然乾燥させてください。
- (5) 責任者を定めるなどの方法で確実に保管・手入れを行い、その内容を管理台帳に記録してください。

9. 性 能

弊社総合試験所において、「墜落制止用器具の規格」に示された方法で試験を行い、下記の規格値を満たしています。（新品時）

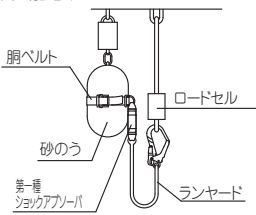
本品は主要部に合成繊維を用いていますので、使用による摩耗・紫外線劣化・その他の要因によって経年と共に強度が低下します。「6.点検と廃棄の基準」の項目を参照して、十分に点検を行ってください。

9.1 ショックアブソーバの耐衝撃性など

試 験 方 法	「墜落制止用器具の規格」値
<p>重すいをテストランヤードで 最大自由落下距離1.8m落下させる。</p>  <p>（形状は一例を示します）</p> <p>（重すいの質量については、ショックアブソーバの使用可能質量による）</p>	<p>衝撃荷重：4.0kN以下</p> <p>ショックアブソーバの伸び： 1.2m以下</p>

（ショックアブソーバの衝撃荷重は、測定した試験値が2.2kN以上の値の平均値を算出しています）

9.2 胴ベルト型組合せ品の耐衝撃性など

試 験 方 法	「墜落制止用器具の規格」値
<p>砂のうをランヤードで 自由落下距離落下させる。</p>  <p>（形状は一例を示します）</p> <p>（砂のうの質量については、ランヤードの使用可能質量による）</p>	<p>砂のうを保持すること</p> <p>衝撃荷重：4.0kN以下</p>

（胴ベルト型組合せ品の衝撃荷重は、測定した試験値が2.2kN以上の値の平均値を算出しています）

9.3 各部の引張強度

試 験 項 目		「墜落制止用器具の規格」値
胴ベルト		15.0kN以上
ランヤード	フック	11.5kN以上
	ロープ(三つ打ちまたは八つ打ち)	15.0kN以上
	ノビロン伸縮ストラップ	
	ブレードロープ	
	ストラップ	15.0kN以上
	ショックアブソーバ	

10. お客様相談窓口

この取扱説明書の内容やその他製品に関するご質問がございましたら、お買い上げの販売店、または下記のご相談窓口にお問い合わせください。

藤井電工株式会社

URL=<https://www.fujii-denko.co.jp/>

本 社 営 業 部 〒679-0295 兵庫県加東市上滝野1573番地2 TEL(0795)48-3851 FAX(0795)48-3409
東北地区 仙台営業所 〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2丁目9番5号五輪ビル TEL(022)256-7001 FAX(022)295-7423
関東地区 東京支社 〒103-0004 東京都中央区東日本橋1丁目7番2号長坂ビル TEL(03)5821-2241 FAX(03)5821-2170
中部地区 名古屋営業所 〒460-0008 名古屋市中区栄1丁目29番19号 ヤスイビル TEL(052)211-7781 FAX(052)211-7782
関西地区 大阪営業所 〒530-0041 大阪市北区天神橋1丁目8番13号林ボタンビル TEL(06)6882-3355 FAX(06)6242-2170
九州地区 福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目8番27号 博多駅東パレスビル TEL(092)413-6110 FAX(092)413-6120

北海道・北陸・中国・四国・沖縄地区については、本社営業部のご相談窓口にお問い合わせください。

検 査 合 格 書

本製品は、「労働安全衛生法」に定める『墜落制止用器具の規格』に基づいた製品であり、ISO9001の管理システムに基づき製造・検査しています。



藤井電工株式会社

品質管理部

検査責任者



本製品は日本の法令または規格等に基づいた仕様です。

本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート及びアフターサービス等を行っておりませんので予めご了承ください。

最新設備を備えた藤井電工総合試験所



屋外試験鉄塔群



屋内試験鉄塔



社(やしろ)工場



藤井電工株式会社